



子育て支援だより NO. 10



令和3年1月12日 アナンダこども園

子育て支援センター長

今年もどうぞ、よろしくお願いいたします。楽しい活動を計画していきますので2月からお気軽にご利用下さい。

「子どもを伸ばす声かけ10の心得」パート②

～「子どもの可能性を伸ばす言葉、つみとる言葉」～岸 英光 著より抜粋

※心得・その3・・・子どもを否定しない、評価しない、比較しない

“「評価」は、学校だけでいい”



・絵を描くのが得意な子、運動が得意な子。子どもは一人ひとり、違った個性と才能を持っています。皆が同じことをできなくてもいいはずなのに私たちはついそれを忘れて、子どもを比較したり、評価したりするところに立ってしまいます。

その評価を家庭に持ち込まれたら、子どもはのびのびと自分の個性や才能を表現する場所を失ってしまいます。

初めて我が子に出会った時は、どんな比較も評価もせず、ただそこにある命を大切に、いとおしく感じていたはず。なのに成長するにしたがって、私たちは子どもにもっと、もっと、今できていないことばかりに目を向けてしまっています。

“「ほめる」のではなく「認める」”

・この子はどんなことが得意なのか。好きなこと、夢中になっていることは何なのか。子どもをしっかり観察することで、それは自然と見えてきます。

そして子どもができていることは、きちんと「認める」どんな小さなことでも子どもが創った結果はしっかりと認めていくことが大切です。そのときに、**友だちや兄弟姉妹とその結果を比較しない事。過去の子どもと比較しないこと。**

今の子どもが創った結果を、ただそのまま受け止め、「ほめる」のではなく「認める」のです。

そして、これが一番大切ですが、**その子どもの個性、子どもの存在そのものを認めること。**学校や友達、社会との関わりの中で否定されたり、評価や比較にまみれても、親は自分のことを認めてくれている。このことは子どもにとって大きな力づけになります。

※心得・その4・・・オープンな問いかけをする



“正解はひとつ?”

・子どもに質問する時は、オープンクエスチョンでの声かけが望ましいです。私たちは「**答えはひとつ**」、という枠組みを持っています。子どもたちは、自分で答えを探せないときは人に教えてもらえばいい、という枠を自然に身につけていてしまいます。

正解は、一つなのだからと、つい外に答えを求めてしまう、ともいえます。ところが、**自分の気持ちや考えの正解はひとつではありません。答えはそれこそ無限にありますし、自分の中に矛盾した思いや考えがうかぶこともあります。**

“「ほかにない?」”と問いかけ続ける”

・「ほかにない?」と問いかけていくことで子どもは自分の中から答えを引き出す練習を積むことができます。自分の中から答えをいくつも編み出すことができれば、**困難なことにぶつかった時、子どもは自分で物事を解決できるようになります。**

自分の考えた方法でうまくいかないことがあっても解決する方法は一つではないので、あきらめずにほかの方法を考え、また、試してみることができます。

苦手だと思っていたことにも、どんどんチャレンジしていける子どもになるのです。



お知らせとお願い

こども園登園自粛に伴い「さくらんぼサークル」もしばらくお休みいたします。

期間は、下記の通りです。子育て相談については、電話予約で受け付けます。

寒さも今後厳しくなりそうですので、感染予防につとめながらお過ごしください。

また、お会いできる日を楽しみにしております。

お休みの期間

1月12日(火)～1月31日(日)



サークルの様子です!

